

Character and Story

超高齢化社会となっていく。  
社会がどのように対応するのかを見てみたかった。



シニアカレッジくわな  
実行委員 菅生 節子 さん

桑名市生まれ。高校卒業後、家業の経理を18年間従事した。  
その後、介護施設に勤務。  
介護福祉士と介護支援専門員の資格を取得した。  
親の介護のため仕事を辞める。  
その後10年間親の介護をした。  
現在、精義地区の老人会女性部の役員。  
老人クラブのテーマ「伸ばそう 健康寿命 担おう 地域づくり」を目指し自分のできることを  
お手伝いしたいと思っています。



菅生さんについて教えてください。

桑名市生まれ、桑名市育ちです。親が商売をしていて、高校を卒業してから家業の経理を18年間していました。このようなことばかりしては自分自身が何も変わらないと思って自分に何ができるのか、それよりも自分がなにをしたいのか模索していました。

ちょうどその頃にこれから「超高齢化社会」がやってくるといわれ始めました。

桑名市で老人保険施設第1号ができ、その募集を知りました。

そのとき、私には親がいたので、将来この親の世話を自分がすることになるだろうから、この仕事はきっと役に立つと信じ応募し採用されました。

施設で働くようになって、自分が介護について知識がないことに気づいたのです。そこで「介護福祉士」と「介護支援専門員」の資格をとりました。

40歳のときです。

訪問介護もしました。お家へ行ってお世話をする。そのときにいろんな人と接したりしました。また、介護保険の認定調査もさせていただきます。

定年まで勤められたのですか。

定年となる60歳目前で親の介護が始まり、仕事を辞めました。認知症の症状がでてきたこともあって親の世話をする毎日となりました。自宅で介護ができたのは、介護施設での経験があったからできたんだと思います。10年間続きました。

その頃社会との繋がりはどうだったのでしょうか。

介護ばかりの毎日は身体的にも精神的にも、きついものがありました。そこで歌うことが好きだったので「カラオケ教室」に通うようにしました。

気分転換ができないと介護は続きません。このことも施設で働いていたときに知っていたからその経験が活かされましたし、介護保険の制度を積極的に利用しました。

親を見送ってから、地区の老人会の女性部の役員さんが役員を代わってくれないかと言ってきました。その方は、趣味の民謡やカラオケでとてもお世話になった方なので、役員を引き受けることになりました。老人会の役員は今も続いています。4年目に入りました。

シニアカレッジはどのように関わるようになったのでしょうか。

シニアカレッジは、老人会の役員を代わってほしいと言ってきた方に勧められたので申し込みました。申し込んだものの、私は輪の中に入って行くのが苦手。グループワークをしたことがない。そしてなによりも自分の意見をいうことが一番苦手でした。

シニアカレッジに参加して、初めてグループで話し合っただけでその出てきた意見をみんなで一人ずつ発表しました。そのとき、思っていたよりも面白かったし自分の意見を言えたことが嬉しかったです。シニアカレッジはいろんな方が参加しているので、その方々と交流することで学ぶことがたくさんありました。

もともとシニアカレッジは高齢者の中でその高齢者を助けるリーダーを養成する目的で開いています。

菅生さんはシニアカレッジでリーダー的なことを身に着けたんですね。

大きな成果は、苦手としていたグループワークのやり方を教えていただいたことです。

また、意見を言うことを毛嫌いしていましたが、意見を言ってもいいんだとわかったことです。



隣は桑名市市民活動センタースタッフ S。

シニアカレッジを今年で終わられるということですが、今後どうされるのですか。

老人会の役員は、なかなか なり手がいませんし、高齢化しています。

私はカラオケが好きで習っていますが、そのカラオケの先生が「あと何年生きられると思っているの？せいぜい20年か30年です。20年なんてすぐですよ、大いに楽しまなければ」と言われました。元気なうちは地域で活動地域づくりに参加させていただこうと思っています。

今「ゆめはま音頭」をみんなで練習しています。桑名市内の老人会が持ち回りでその踊りを県で発表しに行きますが、今年は私の地区の老人会に回ってきました。役員は5人いますが、もっと参加していただこうと募集しているところです。

老人会でもシニアカレッジでも、協力し合わないと言われてません。

これから自分のできることで携わっていききたいなあと思っています。

まずは、人前で話すことが上手になりたいですね。司会や進行係で人の前で話すことは、考えなきゃできないことですからね。

インタビュー 8月29日

桑名市市民活動センター交流スペースにて

インタビュアーより

菅生さんは親の介護をしているときの気分転換に、近くの公民館のカラオケ教室に行っていました。菅生さんは目がとても悪いので、字幕が見えないそうです。だから、歌う曲は全部暗記をしているそうです。十八番は中村美津子の「晩酌」また、菅生さんの地元のおすすめは「石取祭」をだと答えられました。

小さい頃から太鼓を叩いていたそうです。石取祭が終わるとまた来年が楽しみだということでした。

## 映画「オズの魔法使い」(1939年)①

人が、社会生活を送る暮らししていく上で、自分に必要や足りないと思うのはなぜでしょうか？

価値観によって必要と感じるものは、人それぞれ違うのは当然です。今回「オズの魔法使い」の登場人物から暗喩を探りたいと思います。

主人公ドロシーが竜巻で飛ばされ、物語は始まります。アメリカのカンザス州は竜巻が多いところだと言われてもいます。飛ばされた先でドロシーはカカシ、木こり、ライオンと出会い一緒に旅をします。ドロシーは故郷カンザスに帰ること、カカシは知恵、木こりは心、ライオンは勇気が各々必要とし、魔法使いオズが授けてくれると信じエメラルド（シカゴだといわれています）を目指します。ドロシーは何も偏見もなく三者を受入れます。

最初のカカシが必要と思う「知恵」は何を表現しているのでしょうか？学歴それとも教育でしょうか。

情報があふれる日常での理解力や判断力でしょうか。

次の木こりの「心」は何を表現しているのでしょうか。心は広い意味を持つので決めることは難しいのですが優しさでしょうか、他人に対する共感能力でしょうか。

最後のライオンの「勇気」は何を表現しているのでしょうか。リスクを負うことができる、困難に向かう意思でしょうか。

この三者が各々必要だと思っているものは、三者ともにあてはまり誰にもあてはまることだと感じます。



〈筆者コレクション〉

最初のカカシの知恵は優しさと勇気もなければ知恵だけでは判断や行動につながらない。次の木こりの心は、知恵や勇気がなければ他人を思いやることにはつながらない。最後のライオンの勇気は知恵と心がなければどうやって困難に立ち向かうかわからない。

物語の中で私たちが生きていく上で一つも欠けてはならないことだと思います。

言葉として「知恵、心、勇気」と表現されていますが、この三つは関係性を持っていると感じます。

「知恵」は、情報が溢れる中で「一方的に発信する言動」をいろんな角度や視点で考えたり、少数派、反対派の意見にも目を向けたり、聞いたりすることのできる能力かもしれません。そこには他人の話や聞く優しさ意見を聞く勇気ともいえるのではないのでしょうか。

「心」は優しさで他の人のために行動したこと、別の他者から見ると、間違っているとか、批判されるのかも知れませんが、そのことを省みず行動することは、勇気が必要になってくると思います。共感性が生まれる優しさにも知恵がなければ助け合うという考えを持つことはないでしょう。

「勇気」は、仲間を守る、助ける、優しさがあるから助ける行動が生まれるのではないのでしょうか、また、どう行動すれば良いか知恵があるから判断できるのでしょうか。

次号に続く（白尾豪紀）

社会課題キーワード：居場所・共感・情報過多  
〈掲載内容は筆者の見解に基づいています。〉

〈編集者より〉

みなさまからの応援メッセージをお待ちしています！

E-mail [kuwana-sksc@tuba.ocn.ne.jp](mailto:kuwana-sksc@tuba.ocn.ne.jp) まで